訪問介護員が訪問中に経験した事故・ヒヤリハット事例

	性別	事故の内容	事故発生場所	事故が起きた時の具体的な状況	結果	事故発生時のサービスの種類	当該事故を予防するために考えられること（ヘルパーが感じたこと）	振り返ってみましょう
1	80代 女性 要介護3 認知症あり	打撲（転倒）	台所	退院後で筋力が弱っていたせいか、食事を済ませて居間に移動する際、足元がふらつきテレビに頭をぶつけてしまった	打撲（手当て不要）	移動介助	台所で食事をとったため移動をすることになってしまったが、退院後であることも考えて居間で食事をとってもらえばよかった	退院後の心身の状態や転倒の危険性はどのようにアセスメントされ訪問介護計画に生かされていたでしょうか。移動の際の見守りは事前に意識できていたでしょうか。
2	男性 要介護4 認知症あり	打撲（転倒）	廊下	利用者が興奮し突然寝室を飛び出しシルバーカーにて歩行するが早くて追いつかず、そのうちに転倒。右ひざを打った様子。すぐに立ち上がったので大丈夫でしょうとの判断で、あとは妻が手当てをした。	打撲	見守り	精神不安定があり興奮状態にある利用者の場合、常に何があっても対応できる体制を頭に置いておくことが必要	利用者の日頃の行動に関する情報及びそれらを予測した対応が計画されていたでしょうか。
3	80代 女性 要介護3 認知症あり	頭部打撲・切り傷（転倒）	浴室	湯船に腰をおろし足を風呂に入れようとしたが足が上がらず、シャワーチェアを湯船の側に移動しようとして利用者の体を離してしまった	打撲（入院）	入浴介助	ヘルパー2人体制で利用者の体を離さないようにすることが必要だった	この利用者の入浴介助は全く初めてだったのでしょうか。その場合、心身の状態把握とともに、安全な入浴方法について事前の情報把握・確認等がなされていたでしょうか。
4	80代 女性 要支援 認知症なし	打撲・擦り傷（転倒）	玄関	家族の外出中に買物に行くことになり、車を玄関先まで取りに行っている間に、足の不自由な利用者が自ら玄関に出てきてしまい、足を滑らせて階段の手すりに頭を打って転んだ。打った所から出血したので病院に連れて行った。家族に連絡し、処置後すぐに家に戻れた。	頭部打撲（通院）	調理・掃除	しっかりしているように見えたが、二人だけの行動はまずいと思った。利用者に待っているように声はかけたが待っていられなかった様子。	介護員の車での外出はケアプランに基づくサービスであったのでしょうか。介護員のその場の判断でサービス内容を変更することは、利用者にとっても慣れない状況を作り出すことになり予測も不可能なため危険が大きくなります。
5	70代 女性 要介護3 認知症なし	打撲（転倒）	居間	ヘルパーが買物に出かけるため、トイレの有無を確認し歩行しないように本人に伝えて出かけたが、その間にトイレに行き戻ってきた所で転倒していた。	その他（その場で処置）	配下膳	家族の方が買物をするようにすればヘルパーが買物で留守にしなくても済むのではと思った。	利用者が一人で過ごす時間に起こりうる危険性をどの程度予測できていたでしょうか。日中独居のようですが、常時誰かがいないと安全が確保されないのでしょうか。また、買物は家族の実施が可能であれば介護員がサービスに入った理由は何でしょうか。
6	80代 女性 要介護1 認知症なし	打撲（転倒）	道路	自宅から車までの移動中見守りをしていたが、所定の場所に着いた時に目を離してしまい、利用者がよろけて支えきれなかった。	通院	通院介助	道路であった為、何かに気を取られたかもしれない。もっと気を引き締めて見守りをすべきであった。	普段から見守りで対応できていたのでしょうか。回避できない危険もありますが、可能な限り、利用者の心身の状態から、どのような時にどのような危険性があるのかを把握しておくことが重要なことだと思います。見守りは最初から最後まで行って完了します。特に乗車などは着座をする際が最も危険です。
7								
8								